

2020年7月14日(火)～8月24日(月)

# 土門拳の

# 絵と書

# 日本の仙像

# ヒロシマ

開館時間／午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

入館料／一般700円(550円)、高校生350円(280円)、

中学生以下無料(内は団体料金(20名以上)

年間券(1年間有効)随時受付、特典あり

普通年間券(3名まで入館可) 30000円

特別年間券(10名まで入館可) 150000円

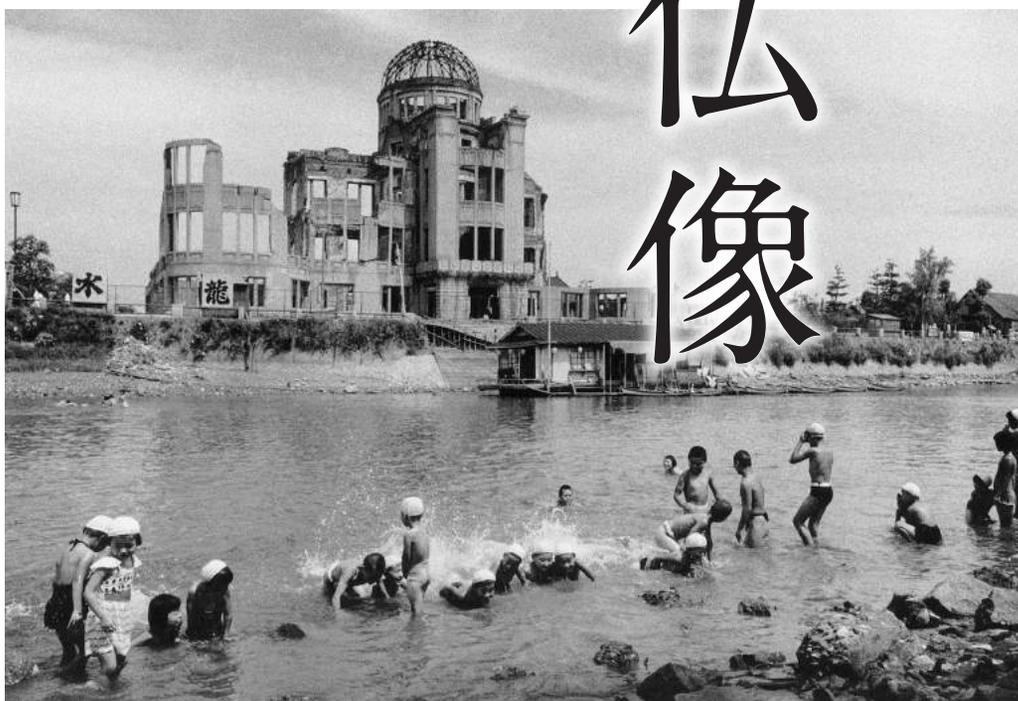
山形県酒田市飯森山2丁目13(飯森山公園内)

TEL・FAX 0234-131-0028

<http://www.domonken-kinenkan.jp/>



会期中  
無休



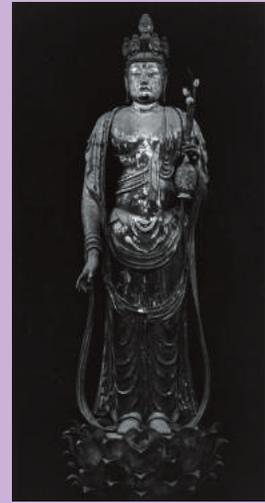
Ken Domon Museum of Photography  
土門拳記念館

## 日本の仏像

土門と仏像の初めての出会いは、奈良の室生寺でした。その一度の室生寺行によって土門は一大決心し、「日本中の仏像という仏像を撮れば、日本の歴史も、文化も、そして日本人をも理解できる」と考え、その後40年以上にもわたる長い仏像撮影の旅が始まります。個性豊かな仏像の表情や細部にまでレンズを向けて撮影された作品は、平成3(1991)年、『日本の仏像』として一冊の写真集に結実しました。



法隆寺西院金堂四天王立像のうち広目天像(1960年)



聖林寺十一面観音立像(1964年)

## 土門拳の絵と書

こどものころから絵と習字が得意であった土門拳。一度は画家を志したものの断念しますが、生涯、絵に対する興味が失われることはありませんでした。昭和43年、脳出血で倒れ右半身不随となった後も、リハビリのために左手で絵筆をとり、スケッチブックを何冊も埋めるほどたくさんの花をスケッチしました。また、土門は折に触れて筆を手にし、多くの書も残しています。写真とは一味違った土門拳作品をお楽しみください。



Y嬢(1950年)



行雲

## ヒロシマ

昭和32年7月、初めて広島へ行った土門拳は、原爆の被害を目の当たりにして以後、報道写真家の使命にかられ、憑かれたように広島に通り詰めました。12年を経てなお原爆症と日々闘う人々、町は復興しつつあっても体や心に残る消えない傷、原爆がもたらした憎悪と失意。土門が広島の実現に真正面から向き合い撮影した記録をご覧ください。



原爆ドームと元安川(1957年)

# 土門拳記念館展示情報 2020

2020年7月14日(火)～8月24日(月)

## 主要展示室

### 日本の仏像

カラー・モノクロ 108点

土門と仏像の初めての出会いは、奈良の室生寺でした。その一度の室生寺行によって土門は一大決心し、「日本中の仏像という仏像を撮れば、日本の歴史も、文化も、そして日本人をも理解できる」と考え、その後40年以上にもわたる長い仏像撮影の旅が始まります。個性豊かな仏像の表情や細部にまでレンズを向けて撮影された作品は、平成3(1991)年、『日本の仏像』として一冊の写真集に結実しました。

\*\*\*\*\*

## 企画展示室 I

### 土門拳の絵と書

32点(額装31点・掛軸1点)

こどものころから絵と習字が得意であった土門拳。一度は画家を志したものの断念しますが、生涯、絵に対する興味が失われることはありませんでした。昭和43年、脳出血で倒れ右半身不随となった後も、リハビリのために左手で絵筆をとり、スケッチブックを何冊も埋めるほどたくさんの花をスケッチしました。また、土門は折に触れて筆を手にし、多くの書も残しています。写真とは一味違った土門拳作品をお楽しみください。

\*\*\*\*\*

## 企画展示室 II

### ヒロシマ

モノクロ 27点

昭和32年7月、初めて広島へ行った土門拳は、原爆の被害を目の当たりにして以後、報道写真家の使命にかられ、憑かれたように広島に通い詰めました。12年を経ているまだ原爆症と日々闘う人々、町は復興しつつあっても体や心に残る消えることのない傷、原爆がもたらした憎悪と失意。土門が広島の現実に真正面から向き合い撮影した記録をご覧ください。

※作品画像提供ご希望の方は [domonken@taupe.plala.or.jp](mailto:domonken@taupe.plala.or.jp) までご連絡ください

土門拳記念館

〒998-0055 山形県酒田市飯森山二丁目13番地(飯森山公園内)

TEL/FAX: 0234-31-0028 <http://www.domonken-kinenkan.jp/>